

# コラムニストの眼

ポール・クルーグマン



The New York Times

オレンジ色 NY の空

警告されてきた災害はすでに

1/20  
10月1日

これが世界の終わりの方なのだ。世界的な大事件が突然起こるのではなく、小規模で局所的な災害が相次ぎ、次第により大きく、あちこちこちらに広がって行くのだ。

オレンジ色に染まったニューヨークの空や非常事態に関するメディアの取り上げ方に、驚くほど多くの不満が寄せられている。雑誌アトランティックの元編集者ジェームズ・フロアーズ氏はこう書いた。「この数十年間に中国やインドの大都市に住んだことがある人や、米国やカナダの山火事の際に太平洋岸北西部、南カリフォルニアに住んでいた人は皆思っているさ！ ニューヨークの皆さんは同情しているさ！ ただ、報道の注目度の違いに気付かずにはいられない」と。

その通りだ。だが、アジアの都市における大気汚染は、その地域の事情によって作り出されたものだ。それに対して、近年悪化する米国西部における山火事による大気汚染の問題は、来たるべき気候変動による災害のまさに前兆であり、そう見られるべきだった。だが問題は、ニューヨークの大気汚染の災害が注目を集めすぎていることではなく、それ以前の災害があまりに注目

されなかったことだ。

確かに、ニューヨークは依然としてメディア界の中心地であり、種が充満したその空が、他地域の同じような危機では得られない注目を集めるのは不公平だ。しかし、それはこれらの危機から学ぶことの重要性に比べればささいなことである。今年、十分な影響力のある人たちが自らの目で何が起っているのかを見ただけから。

今回の災害が何千万人もの人々の生活を混乱させ、相当数の居すき死を含んだ健康への深刻な打撃を与えたことはいさすず明らかになるだろう。これらの点のほとんどはあきれるほど明白なのに、気候変動に関わる政治は災害が起るまで、あるいは災害が起った後でも、主に明白なことを否定する人々に関するものだった。

気候科学者たちは何十年もの間、地球温暖化が山火事の急増を誘発しようとして主張してきた。国連の報告書は昨年、多くの激しい地帯が高温暖化・乾燥化することを「地球規模の山火事危機」が助けると警告した。専

門家たちは、この特定の週にこのような災害が起ることは予測していなかったが、これはまさに彼らが起ると警告してきた通りのものである。

ただ、米共和党を現時点で実質的に支配している温暖化否定論者が認められることは思われない。元ニューヨーク市長のルドルフ・ジュリアーニ氏は6月7日、ニューヨークのオレンジ色の煙霧について、こう尋ねた。「山火事によるものなのか、気候変動によるものなのか、それとももっと邪悪なものなのか」

実際、この災害に関する論議は、言わねば山火事のように広がっている。「カナダの火災は指向性エネルギー兵器によって起された」「いや、政府のドローンや過激左派によって起された」「とにかく、人々に再びマスクを着用させ、再び（コロナ流行時の）ロックダウンに戻らせよう」という陰謀の一部だ」といったよう

に。最近の政治史を振り返れば、どんなにおかしなものであったとしても、こうした陰謀論が人々の注目を得られないうと決めつけるのは非常にまずい考えだ。

まともな話に乗ろう。気候変動の現実を受け入れる人々でさえ、本心に深刻な影響はまだ何年か先にあると考える傾向がある。そして、以前は異常とされた災害がより大きく、より頻繁に起こるようになると、気候変動による被害が時間とともに徐々に拡大していくことは、水や火災、干ばつが数年ごとに起き、より多くの人々に影響を与えるようになっている。気候危機はさらに悪化するだろうが、それはすでにかなり進んでいるのだ。

そして、安全な場所はない。地球温暖化は、すでに驚くほど速く進んでいる。インドや中東など暑い地域にとって悪い話だけでなく、寒い地域に住む人々にとっても悪いことかもしれない。人々を苦しめる人々がいる。しかし、カナダで山火事が起き、これまで寒い冬（米五大湖の）湖水氷の層で有名なニューヨーク州中部は、ニューヨーク市と同じかそれ以上に大きな打撃を受けている。

被害はさらに悪化することや確信を得

ている。今、効率的な気候変動対策を行っても、災害がより大きく、より頻繁になることをこの先何年もの間、防ぐことはできないだろう。

かろうじて良いニュースといえは、気候変動に対する真の対策がようやく見え始めたことだろう。全ての状況がよやく見え始めたことだろう。全ての状況がよやく見え始めたことだろう。全ての状況がよやく見え始めたことだろう。全ての状況がよやく見え始めたことだろう。

しかし、私たちが遅ればせながら地球温暖化対策に取り組み、大気中の温室効果ガスの量を減らすことができない限り、気候変動は改善せず、せいぜい悪化するスピードが遅くなるくらいだ。当面の間、私たちは以前より大きな気候変動の災害に直面することになる。そして、この未来はすでに始まっているのだ。

(©2023 THE NEW YORK TIMES)  
(NYタイムズ、6月8日電子版 抄訳)